

クラス番号	618	担当教員名	藤井 博之
テーマ	地域医療はいかに構築されるか		
著書・論文	川上武編著『戦後日本病人史』勁草書房, 2002 年 保健医療福祉キーワード研究会『保健医療福祉のくせものキーワード事典』医学書院, 2008 年 藤井博之ほか編著『リハビリテーションとしての在宅医療』南山堂, 2011 年		
研究課題等	藤井博之編著『ラーニングシリーズ I P 保健医療福祉専門職の連携教育・実践 第 1 巻 I P の基本と原則』『同 第 4 巻 臨床現場で I P を実践し学ぶ』協同医書, 2018 年		
ゼミナール概要			
キーワード：地域医療 地域ケア 地域リハビリテーション 多職種連携（教育）			
【目的】本ゼミの目標は、全員が、卒論を提出し、就職または進学し、社会福祉士・精神保健福祉士国家試験に合格することです。4 年生の半数は 7 月までに卒論を完成させています。 【内容】得意な研究テーマは、医療技術と社会福祉援助、在宅医療・地域リハ（Community Based Rehabilitation：CBR）と‘地域包括ケア’、農村医療と都市の医療、当事者・医療者関係、‘多職種協働’、地域包括ケアなどです。もちろんこれらに限らず、問題関心とやる気があれば、各自のテーマを深めるお手伝いします。 【方法】文献購読、テーマごとにグループをつくり報告・質疑し合うチュートリアル、本学大学院の「ケースメソッド」教材を使ったディスカッション、フィールド調査、統計調査などの方法で、「地域の一部としての地域医療」のダイナミズムに迫ります。また、他学部・他大学の学生や現場で働く人たちと一緒に学ぶ機会をつくり、IPE（Interprofessional Education）の手法を取り入れます。夏休みや春休みの合宿は、学生が主体的に企画・運営します。参加しないとゼミについていくのは難しくなります。バイトなどより優先的に日程を確保してください。今年は、保正友子教授や他大学のゼミなどと合同で合宿を行い、病院見学と学習・討論を行います。 フィールド調査、夏と春の合宿への参加が必須です。 【授業計画】発言・発表、レポート、病院見学やフィールド活動、ゼミ内の役割分担など、積極的に学ぶことを求めます。2017-8 年の卒業生は、全員が卒論単位を取り、就職・進学し、国家試験合格率は 75%, 46%でした。 ・3 年生：前期は文献購読、チュートリアル、ケースメソッド、フィールドワークに取り組み、サブゼミとゼミ全体でグループワークを行います。3 回のレポート提出があります。夏休みにゼミ合宿を行い、そこで提出する卒論研究計画書について指導します。後期は、全員が卒論について、文献収集・講読、調査の計画・実施に取り組み、ゼミで報告・討論します。病院見学などのフィールド調査にも行きます。後期では卒論研究計画書とレポートの提出が合計 3 回あります。春休みには、ゼミ合宿を行います。 ・4 年生：春休みに卒論の調査をやり遂げ、4 年生の夏休み前に卒論執筆をほぼおえます。本ゼミ・サブゼミでは、研究報告、文献講読、チュートリアルを行い、後期は国家試験準備にも取り組みます。			
担当教員からのメッセージ			
 ・医療は福祉の一部であり、地域医療は地域社会の一部だという立場をとります。‘地域医療’には、各行政区画の医療をどう確保するかという行政的視点と、自分たちの暮らす地域でどのように医療を充実させるかという運動的視点の 2 つの視点があります。私は主に後者で、地域医療の構築過程を考えています。 ・2015 年に専任教員になり 5 クラス目のゼミ募集です。私の経歴の大半は医師で、在宅医療、リハビリテーション医療を中心に、診療所やリハビリテーション病院、地域ケア現場の運営、IPE に携わってきました。福祉用具、医療史や医療技術論についても考えています。医療福祉で働きたい方はもちろん、生命と生活に関心のある方と議論が楽しみです。			